

# 平成21年度 丹後広域振興局運営目標 達成状況

中期ビジョン	行政経営				
事項 ○	管内市町、府民との連携強化による行政経営の推進				
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%; text-align: center;">21年度運営目標</th> <th style="width:50%; text-align: center;">取組及び達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="170 414 954 1439"> <p>○3年目を迎える地域力再生プロジェクト支援事業について、60件以上（平成20年度55件）の地域団体を支援するとともに、これまでの交付団体（81団体）に対し、意見や情報交換の場を提供することで、団体単独の活動から団体相互の協働活動やネットワーク構築につなげます。 また、これまでの支援団体での効果を検証・分析することで、団体のニーズ等を把握し、交付団体へのアドバイス等の支援を行います。</p> <p>○局の活動について、振興局ホームページ、「たんご活動プランニュース」（年2回、全戸配布）、府民だより地域版（年4回、全戸配布）の定期的発行、市町広報誌の活用、更に、今年度新たに開局するFMたんごにより、より多くの府民に活動情報を提供します。</p> <p>○管内1,000人以上の府民との意見交換を行い、現地現場でのニーズを把握し、府民満足の最大化を目指して、よりの確な行政経営を進めます。 また、府民交流会を開催し、その意見を踏まえて、丹後活動プラン（丹後地域振興計画）の見直しに着手します。</p> <p>○「府民公募型安心・安全整備事業」については、通学路や信号機等の整備をはじめとして、より多くの提案をもらうため、管内の小中高等学校（79校）、社会福祉施設（約80施設）に制度の周知を行うほか、各種のイベント等においてPRを行います。【新規】</p> </td> <td data-bbox="954 414 2089 1439"> <p>◎ ▶地域力再生プロジェクト支援事業交付金<b>60件</b>を交付決定。 ・交付金交付団体間のネットワーク構築に向け、「丹後の力発表会」（11月21日、約500名来場） 「情報発信フォーラム」（3月13日、22団体40名参加） 「FMたんご」による電波での地域力再生団体やNPOの活動PR（2～3月、30団体）（地域戦略推進事業） 「地域力再生活動事例集」の作成（3月） などの方法で、平成21年度までの3年間の交付団体（81団体+21年度31団体=<b>112団体</b>）と情報交換等の機会を設け、団体間の連携・協働の基礎づくりにつなげた。 ・局発行の広報誌「たんご活動プランニュース」（年2回）や市町発行の広報誌（年11回）などを通じて地域力再生活動を広く地域住民にPRし、多くの人に身近な地域活動を紹介。 ▶これまでの交付団体に対し、活動状況調査を行うとともに、一部の団体を直接訪問するなど、交付団体への接触・フォローアップを積極的に実施。</p> <p>◎ ▶「たんご活動プランニュース」を<b>2回</b>（9月、3月）、「府民だより」地域版を年<b>4回</b>、府民へ府施策を分かりやすくPR。 ・管内市町との連携の一つとして、京丹後市広報誌に、「京都府のひろば」として年11回、管内での府の取組を紹介。 ▶開局1年目の「FMたんご」を活用して、振興局・管内公所がNPO・地域団体等と共に出演し、協働事業の活動をPR（17回実施）</p> <p>○ ▶様々な団体との会合などを通じて、<b>約1,000人</b>の府民との意見交換を行った。 ▶府民交流会 in 丹後を開催（7月20日、参加者250名） ・丹後地域戦略会議を開催（5回）し、次期・丹後地域振興計画の策定に着手、方向性等を取りまとめた。</p> <p>◎ ▶管内の小中高等学校へのPRについては、5月1日、管内公立学校園長会での説明や管内市町教育委員会への周知依頼を行った。 ・管内の社会福祉施設については所管課からの周知により依頼を行った。 ・管内市町各自治会については市町担当課から説明が行われた。 上記PRの結果、予想以上に公募があり、制度の周知は達成されたと思われる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>		21年度運営目標	取組及び達成状況	<p>○3年目を迎える地域力再生プロジェクト支援事業について、60件以上（平成20年度55件）の地域団体を支援するとともに、これまでの交付団体（81団体）に対し、意見や情報交換の場を提供することで、団体単独の活動から団体相互の協働活動やネットワーク構築につなげます。 また、これまでの支援団体での効果を検証・分析することで、団体のニーズ等を把握し、交付団体へのアドバイス等の支援を行います。</p> <p>○局の活動について、振興局ホームページ、「たんご活動プランニュース」（年2回、全戸配布）、府民だより地域版（年4回、全戸配布）の定期的発行、市町広報誌の活用、更に、今年度新たに開局するFMたんごにより、より多くの府民に活動情報を提供します。</p> <p>○管内1,000人以上の府民との意見交換を行い、現地現場でのニーズを把握し、府民満足の最大化を目指して、よりの確な行政経営を進めます。 また、府民交流会を開催し、その意見を踏まえて、丹後活動プラン（丹後地域振興計画）の見直しに着手します。</p> <p>○「府民公募型安心・安全整備事業」については、通学路や信号機等の整備をはじめとして、より多くの提案をもらうため、管内の小中高等学校（79校）、社会福祉施設（約80施設）に制度の周知を行うほか、各種のイベント等においてPRを行います。【新規】</p>	<p>◎ ▶地域力再生プロジェクト支援事業交付金<b>60件</b>を交付決定。 ・交付金交付団体間のネットワーク構築に向け、「丹後の力発表会」（11月21日、約500名来場） 「情報発信フォーラム」（3月13日、22団体40名参加） 「FMたんご」による電波での地域力再生団体やNPOの活動PR（2～3月、30団体）（地域戦略推進事業） 「地域力再生活動事例集」の作成（3月） などの方法で、平成21年度までの3年間の交付団体（81団体+21年度31団体=<b>112団体</b>）と情報交換等の機会を設け、団体間の連携・協働の基礎づくりにつなげた。 ・局発行の広報誌「たんご活動プランニュース」（年2回）や市町発行の広報誌（年11回）などを通じて地域力再生活動を広く地域住民にPRし、多くの人に身近な地域活動を紹介。 ▶これまでの交付団体に対し、活動状況調査を行うとともに、一部の団体を直接訪問するなど、交付団体への接触・フォローアップを積極的に実施。</p> <p>◎ ▶「たんご活動プランニュース」を<b>2回</b>（9月、3月）、「府民だより」地域版を年<b>4回</b>、府民へ府施策を分かりやすくPR。 ・管内市町との連携の一つとして、京丹後市広報誌に、「京都府のひろば」として年11回、管内での府の取組を紹介。 ▶開局1年目の「FMたんご」を活用して、振興局・管内公所がNPO・地域団体等と共に出演し、協働事業の活動をPR（17回実施）</p> <p>○ ▶様々な団体との会合などを通じて、<b>約1,000人</b>の府民との意見交換を行った。 ▶府民交流会 in 丹後を開催（7月20日、参加者250名） ・丹後地域戦略会議を開催（5回）し、次期・丹後地域振興計画の策定に着手、方向性等を取りまとめた。</p> <p>◎ ▶管内の小中高等学校へのPRについては、5月1日、管内公立学校園長会での説明や管内市町教育委員会への周知依頼を行った。 ・管内の社会福祉施設については所管課からの周知により依頼を行った。 ・管内市町各自治会については市町担当課から説明が行われた。 上記PRの結果、予想以上に公募があり、制度の周知は達成されたと思われる。</p>
21年度運営目標	取組及び達成状況				
<p>○3年目を迎える地域力再生プロジェクト支援事業について、60件以上（平成20年度55件）の地域団体を支援するとともに、これまでの交付団体（81団体）に対し、意見や情報交換の場を提供することで、団体単独の活動から団体相互の協働活動やネットワーク構築につなげます。 また、これまでの支援団体での効果を検証・分析することで、団体のニーズ等を把握し、交付団体へのアドバイス等の支援を行います。</p> <p>○局の活動について、振興局ホームページ、「たんご活動プランニュース」（年2回、全戸配布）、府民だより地域版（年4回、全戸配布）の定期的発行、市町広報誌の活用、更に、今年度新たに開局するFMたんごにより、より多くの府民に活動情報を提供します。</p> <p>○管内1,000人以上の府民との意見交換を行い、現地現場でのニーズを把握し、府民満足の最大化を目指して、よりの確な行政経営を進めます。 また、府民交流会を開催し、その意見を踏まえて、丹後活動プラン（丹後地域振興計画）の見直しに着手します。</p> <p>○「府民公募型安心・安全整備事業」については、通学路や信号機等の整備をはじめとして、より多くの提案をもらうため、管内の小中高等学校（79校）、社会福祉施設（約80施設）に制度の周知を行うほか、各種のイベント等においてPRを行います。【新規】</p>	<p>◎ ▶地域力再生プロジェクト支援事業交付金<b>60件</b>を交付決定。 ・交付金交付団体間のネットワーク構築に向け、「丹後の力発表会」（11月21日、約500名来場） 「情報発信フォーラム」（3月13日、22団体40名参加） 「FMたんご」による電波での地域力再生団体やNPOの活動PR（2～3月、30団体）（地域戦略推進事業） 「地域力再生活動事例集」の作成（3月） などの方法で、平成21年度までの3年間の交付団体（81団体+21年度31団体=<b>112団体</b>）と情報交換等の機会を設け、団体間の連携・協働の基礎づくりにつなげた。 ・局発行の広報誌「たんご活動プランニュース」（年2回）や市町発行の広報誌（年11回）などを通じて地域力再生活動を広く地域住民にPRし、多くの人に身近な地域活動を紹介。 ▶これまでの交付団体に対し、活動状況調査を行うとともに、一部の団体を直接訪問するなど、交付団体への接触・フォローアップを積極的に実施。</p> <p>◎ ▶「たんご活動プランニュース」を<b>2回</b>（9月、3月）、「府民だより」地域版を年<b>4回</b>、府民へ府施策を分かりやすくPR。 ・管内市町との連携の一つとして、京丹後市広報誌に、「京都府のひろば」として年11回、管内での府の取組を紹介。 ▶開局1年目の「FMたんご」を活用して、振興局・管内公所がNPO・地域団体等と共に出演し、協働事業の活動をPR（17回実施）</p> <p>○ ▶様々な団体との会合などを通じて、<b>約1,000人</b>の府民との意見交換を行った。 ▶府民交流会 in 丹後を開催（7月20日、参加者250名） ・丹後地域戦略会議を開催（5回）し、次期・丹後地域振興計画の策定に着手、方向性等を取りまとめた。</p> <p>◎ ▶管内の小中高等学校へのPRについては、5月1日、管内公立学校園長会での説明や管内市町教育委員会への周知依頼を行った。 ・管内の社会福祉施設については所管課からの周知により依頼を行った。 ・管内市町各自治会については市町担当課から説明が行われた。 上記PRの結果、予想以上に公募があり、制度の周知は達成されたと思われる。</p>				

地域振興計画	観光振興と交流・定住の促進	
事 項 1	多様な資源を活用した新たな観光・交流・定住施策の展開	
21年度運営目標		取組及び達成状況
<p>○観光入込客目標600万人を目指します。  (1)丹後広域観光キャンペーン協議会と連携した「私のふるさと丹後」を目指した、新たな観光戦略事業を積極的に展開</p> <p>【積極的な丹後特産品や観光資源PRの展開】</p> <p>①大都市圏（東京、大阪）における「丹後PRフェア」の開催  大手旅行会社、マスコミ等を対象に観光資源、丹後特産品（海産物、特A「丹後コシヒカリ」、京野菜、丹後ちりめんなど）の丹後PRフェアを開催（東京、大阪各1回）</p> <p>②テレビ、雑誌等による観光PR（テレビ、雑誌等50回）</p> <p>③公共交通機関と連携し、旬のイベント情報等の観光情報紙等の発行（年6回、各5万部）【新規】</p> <p>【様々なイベント等による観光等の推進】</p> <p>④自然公園ふれあい全国大会で、丹後の魅力を全国に発信するとともに、エコツアー5コースを実施【新規】</p> <p>⑤山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟に向けて、まず、日本国内からの候補地選定を目指して、専門家によるネットワークの構築、ジオパークフォーラムの開催、ジオツアールート（3コース）の設定を行います。【新規】</p>	<p>×</p> <p>◎</p>	<p>▶平成21年の観光入込客数については、現在<b>集計中</b>  （平成20年の558万人を下回る見込み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GW期間中は見学施設、展望・休養施設は対前年104%、温泉施設等は対前年102%といずれも前年を上回った。</li> <li>・夏期は5月下旬の新型インフルエンザの流行による風評被害により主要地点は対前年97.7%と減少、海水浴客は長雨の影響もあり丹後地域全域で5～6割の減となった。</li> <li>・年末年始は見学施設等で対前年97%と下回ったが、展望・休養施設104%、体験施設等101%と前年並みであった。</li> </ul> <p>①丹後PRフェア<b>2回</b>開催  6月17日 東京フェア開催 参加者97名（リーガロイヤルホテル東京）  11月18日 大阪フェア開催 参加者78名（大阪国際会議場）</p> <p>②テレビ44回 雑誌等18回 計<b>62回</b></p> <p>③夏号、秋号、カニ号、冬号、春号 計<b>5回、各5万部</b>発行</p> <p>④9月12・13日に自然公園ふれあい全国大会を開催。エコツアーコース<b>5コース</b>実施（合計30名参加）</p> <p>⑤京丹後市でのジオパークフォーラム（5/9）、地質見学会（5/10）実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ジオパーク委員会から、10月に世界ジオパーク国内候補地として選定、12月に世界ジオパークネットワークに加盟申請書を提出。</li> <li>・ジオツアー・モデルコース（<b>3コース</b>）設定</li> <li>・京丹後エリアでのジオパークガイド養成講座開催  1月： 受講者42人  2月：2回 受講者70人  3月：2回 受講者75人 延べ187人受講</li> <li>・山陰海岸ジオパーク推進協議会に、4つの専門部会（「学術部会」、「教育部会」、「地域連携部会」、「ツーリズム部会」）を設置（3月）</li> <li>・京丹後エリアジオパークガイド養成用DVD作成（3月）</li> </ul>

【企画商品や新たな観光ルートの開発】

⑥北近畿タンゴ鉄道やバス、船など公共交通機関と宿泊施設が連携した企画商品の開発（**5種類**）【新規】

【丹後の魅力を的確に伝える人材育成】

⑦丹後ふるさと検定の実施（**受検者150人以上**）

⑧観光客への「おもてなし（接客）」の意識及び技術を高める講習会、丹後観光口コミ大使講習会等の開催（**10回**）【新規】

【期間定住」や「定住」を目指した取組】

⑨地域資源を商品として販売する「農のあるくらし百貨店」（有限会社 常吉村営百貨店）の本格営業開始  
・ホームページ、パンフレット、新聞等で広報し、随時受付する**商品販売数8、顧客数300人**を目指します。  
・商品内容の充実を図るため、商品モニターツアーを実施します（**1回**）【新規】

(2)「丹後きものネット」（企業、商工観光団体、府、市町）を中心に、和装振興を図るとともに観光産業と連携した取組を実施します。

- ・丹後きものパスポートの掲載内容を再点検し、内容を充実して発行（2万部）
- ・第3期「丹後きものクイーン」を任命し、積極的な観光キャンペーンを展開
- ・「ゆかたを楽しむ日・月間」「きものを楽しむ日・月間」の設定
- ・市町村や関係団体と連携したイベントでの「着物フォトサービス」の実施
- ・和装の良さを見直す「着物学講座」等のシリーズ開催

- ・京丹后市全域に啓発用ポケットティッシュ配布(2月)。
- ・ジオパークポスターの車内吊り（KTR・路線バス車内広告（3月）
- ・PRパネル製作、パネル展開始（3月）
- ・旅館等観光施設等でのポスター掲出、チラシ設置
- ・小学生用PR下敷き配布
- ・大型商業施設への懸垂幕、幟の掲出（前年度からの継続分）

◎ ⑥**6種類**開発実施済み（2day天橋立まるごとフリー切符（KTR、丹海）、サワラ会席、黒アワビ会席（KTR）、ボンネットバスめぐり（丹海）、沖ぎすと京たんくろ和牛しゃぶしゃぶ（KTR）、丹後半島・間人フリーパス（KTR、丹海））

× ⑦10月26日（月）実施、受検者**84名**（申込み107名、⑩受検者96名）  
検定セミナー2回開催 計46名参加  
旅館などの従業員の受験に配慮して、月曜日開催としたが、受験者数としては減少した。

◎ ⑧観光未来塾 府観光連盟、京丹后市観光協会と連携し、6講座開催  
口コミ大使講座 6講座実施（計**12回**開催）

× ⑨**7商品で89人**の参加があった。  
・11月22日にモニターツアーを**実施**した。  
・ホームページや新聞、情報誌などによる広報、パンフレット配布も行ったが、まだまだ認知度が低い。さらに実績を積み上げながら、PRの工夫、商品内容の充実、団体客受入体制の確立などに努める必要がある。

○ ▶事業主体である開催委員会において、その波及効果について検証し、**中止**を決定。

▶12名の応募、審査により4名を任命し「丹後きものまつりin天橋立」を皮切りに活動。地域でのイベント参加、京阪神等へのキャンペーンを実施

▶ゆかたを楽しむ日（7月31日）きもの楽しむ日（10月16日）を設定し、きものNET関係団体でゆかた、きもの着用によるPRを実施

▶「丹後きものまつりin天橋立」、「夢よさこい」（京丹后市商工会）2箇所実施

▶全7回の講座を実施、延べ受講者数232名

地域振興計画	農林水産業の振興	
事 項 1	地域の特徴を引き出す農林水産業の振興	
21年度運営目標	取組及び達成状況	
<p>【高品質農産物生産等による農業振興】  ○丹後国営開発農地で新しい茶の産地づくりを進めるとともに、製茶工場の建設や販売戦略を推進します。  ・50ha規模の茶産地を確立するため、優良茶園の整備のための栽培管理技術と、新規植栽を支援します。(7haの拡大)  ・平成21年度に建設する製茶工場において、丹後地域で採れた茶葉全量を加工・出荷できる体制を整備します。  →一元的な加工と出荷による丹後産茶の地位の確立(平成21年度生葉処理量10t)【新規】  ・先進地域の製茶工場で濃密な実地研修を行い、生産者主体による新しい製茶工場の運営管理を支援します。  →製茶技術者を専従者1名と技術者4名の育成  ・実需者である茶商との求評会、交流会等を通じて、実需者ニーズを踏まえた高品質生産を実施します。  →求評会・市場表敬1回、現地交流会1回  ・丹後茶の認知度と産地のイメージアップを高めるため、消費者への宣伝活動の強化を図ります。  →KTRとタイアップしたKTR車内での新茶サービスなどPRイベント2日間【新規】</p> <p>○丹後コシヒカリの3年連続特A評価の継続維持を行うとともに、そのイメージアップを図ります。  ・丹後米コシヒカリPRパンフレットの作成(1種類)、試食・即売会を実施(2回)します。  ・施肥管理技術の実証ほ(実験・実証栽培)を設置し、生育診断技術に基づくコシヒカリの良食味米生産技術の普及を図ります。  →実証ほ4箇所設置  ・全地域を対象に実証ほ等の成績を活用した技術普及や、良食味米共励会の運営支援による良食味米生産に対する気運の向上を図ります。  →実証ほを活用した技術研修会4回</p>	<p>×</p> <p>◎</p>	<p>▶茶の新規植栽は、4ha(平成21年度末で47ha)生産の立ち上げに経費がかかり、拡大への投資が困難な状況にあるため、茶工場をフル稼働し経営の改善を図る必要がある。  ▶今年度の生葉処理量は、萌芽後の低温や品質確保のため若芽穫りしたことも影響し、4.9tで終了  来年度に向けて技術研修や肥培管理機械の導入などにより、収量及び品質の向上を図る。  ▶和東町グリーンハザマ製茶工場において製茶技術研修を実施。専従予定者1名、技術者7名の製茶技術の習得が図られた。製茶工場運営計画へ助言指導を行った。  ▶丹後産一番茶初出荷時に市場表敬1回(5/9)、茶商との求評会を1回(10/14)開催。丹後共販茶審査会を1回(3/3)開催。高品質茶生産に向け生産者の意識向上が図られた。  ▶5月30日、31日の2日間、KTR車内及び天橋立駅での新茶の試飲及び一煎パックの配布(約1,000パック)をKTR利用者に行う等、丹後茶の宣伝活動が図られた。</p> <p>大目標である3年連続特A評価の継続維持を達成したので、全体評価も◎とする。  ▶日本穀物検定協会「平成21年産米食味ランキング」において「特A」3年連続(通算8回目)獲得。  ・パンフレット作成(2種類)、試食会開催(2回)  ・8月27日、丹後農研施設公開で試食会、PRキャンペーンを実施  ・11月28日、29日、農林水産フェスティバルでPRキャンペーンを実施  ・12月11日、府大公開講座で試食会、PRキャンペーンを実施  ・3月8日、京都駅でPRキャンペーンを実施  ▶施肥管理技術実証ほ4箇所(京丹后市弥栄町鳥取、伊根町大原、与謝野町男山、同後野、)設置。土壌分析に基づいた基肥施用、生育診断に基づいた穂肥施用の技術実証。  ▶互見会や検討会等技術研修会4回(6/16、7/1、8/21、2/10)開催。生産者間の意見交換・技術交流が図られた。良食味米共励会参加者(54名)が前年に比べ6名増加する等、良食味米生産に対する意識向上が図られた。</p>

(農業研究)

丹後地域特産物育成協議会、茶の匠塾、丹後果樹研究同  
志会等農業関係団体と連携して、高収益、高品質、安心安  
全な農産物生産を積極的に支援します。

→3年連続「特A」目指しおいしい丹後産コシヒカリ  
の栽培方法を開発します。目標：**良質粒率80%以  
上、食味推定値80以上**

→果樹や畑作営農の栽培講習会や現地検討会を実施  
し、最新の研究成果を積極的に公表します。

(畑作営農の作目：梨、ぶどう、もも、エビイ  
モ、ミズナ、金時ニンジン、聖護院ダイコン、  
西洋ニンジン、茶)

○ブランド京野菜生産を振興し、出荷量の増加及びブランド  
産地化を促進することで、年間出荷額**4億円(約3億円)**  
を確保します。

・みず菜**450トン**(平成20年度393ト)、九条ねぎ**90  
トン**(平成20年度51ト)、聖護院大根**90トン**(平成20  
年度78ト)に拡大

・みず菜の生産技術の向上と新規栽培者の掘り起こしを支  
援(みず菜統一部会**会員200名、新規栽培者3名**を目  
標)【新規】

・九条ねぎのブランド産地の育成を支援(新規**1産地**)【新  
規】

・京野菜複合経営モデル(みず菜+九条ねぎ)の推進を支  
援(**4戸増(14戸→18戸)**)

○伊根町の薦池(こもいけ)地区の特産品「大粒の小豆であ  
る薦池(こもいけ)大納言」の生産拡大【新規】

・大粒化安定生産技術を確立するとともに、生産販売量を  
**800kg**に増加(20年度は700kg、17~19  
年度は約400kg)

・品質評価の周知と新たな取引先への販路開拓活動を展開

(農業研究)

▶栽培方法開発研究における **整粒率(良質粒率)70%、食味推定値90**を達成  
・コシヒカリの食味向上を目指した互見会を、管内6箇所のほ場で2回開催(7/  
1,8/21、参加者各21名)

・新技術の迅速な普及のための現地検討会やセミナー等の開催 19回(水稻、西  
洋ニンジン、果樹のコンテナ栽培、茶、緑肥など)

▶公開行事等の開催

・府大公開講座(12/11、京都市)、コシヒカリ50周年記念セミナー「これから  
の丹後産コシヒカリを考える」(12/15、参加者75名)、「丹後産コシヒカリ良  
食味米共励会」研修会(2/10、参加者80名)

・施設公開における一般開放(8/27、来所者は過去最高の354名)、総合的な試  
験成績報告会の開催(2/24、参加者81名)

・分野別農業セミナー等開催(農業者、消費者・商工関係者対象)6回 494名

・地元小学校等への専門職員派遣2回(70名)、京都市内での食育支援(同志社  
小食育母の会40名)

○ ▶ブランド京野菜(管内)年間出荷額 **3億1千万円**

▶出荷量は目標に対し、みず菜87%(**390t**)、九条ねぎ98%(**88t**)、聖  
護院大根は79%(**71t**)であった。

・みず菜は、夏の天候不順による生育不良や病害虫発生に伴い減少した。

・九条ねぎは、とう立ち防止のための遅植え、7月の天候不順による品質低下、  
病害発生等により生産量が減少した。

・聖護院大根は、7月の天候不順に伴う雑草害により生育が遅れ、収穫時期に積  
雪の影響も受けた。

▶みず菜新規栽培者は**3名**達成。

・統一部会は、JA各支店の管轄を越えることが困難であるため、各部会代表者  
による代表者会議を組織し統一的な生産体制の整備を行った。(部会全体の会員  
は**200名**確保)

▶九条ねぎは、9月にブランド産地指定(**伊根町**、2.4ha)

▶京野菜複合経営モデルは、**4戸増**で18戸に

◎ ▶各種実証ほ設置(系統選抜：1箇所、平場地域安定生産：3箇所、優良種子生  
産：3箇所)、栽培講習会開催(7/13、8/26)、現地検討会開催(9/10、  
10/5)、栽培管理情報発行(4号)、栽培指針作成。

・生産量は**800kg**

▶販促促進用リーフレット作成(200部)。伊根町うみや~もん祭でPR(11/  
15)。

・新たな取引先確保に向け、和菓子製造業者2社(京丹後市内、京都市内)及び  
洋菓子業者1社(京丹後市内)へ販売促進活動。

・製造業者4社(京都市内3社、南丹市内1社)へ加工品質評価依頼

○丹後地域の農業生産を支える多様な担い手の確保と育成

- ・青年農業者の経営能力の向上を支援します。(経営能力セミナーの開催**2回**)
- ・女性や新規就農者等を対象とした基礎的な農業技術習得を支援します。(農業基礎講座の開催**7回**、**新規就農者等20人**)
- ・参入企業法人専従者の栽培管理技術習得を支援します。(対象：6社のうち**4社**、**国営農地基礎講座の開催4回**、**現地研修会の開催4回**)【新規】

○共に育む「命の里」事業を活用し、過疎化・高齢化の進む農村地域の再生に向けた取組を支援します。【新規】

- ・複数集落の連携や集落と大学等多様な主体が連携した組織の育成及び活動支援を行います。  
里力再生計画を策定し、生活用水、集落道路の整備や広域営農体制の構築、直売所など販路開拓の取組を行う地区数 **2地区**  
ふるさと共援組織の協定数 5協定→**6協定**

○受精卵の提供拡大による畜産農家の経営支援（年間市場上場頭数の増）

- ・優良牛等の生産、育成、譲渡による農家の経営改善支援  
目標：**畜産農家への譲渡55頭**（**20**42頭）
- ・和牛受精卵生産譲渡、妊娠牛譲渡の拡大：和牛受精卵の生産譲渡目標 **400卵**（**20**315卵）、妊娠牛の譲渡目標 **10頭**（**20**2頭）
- ・放牧した乳牛の育成譲渡：乳用育成牛への和牛受精卵受胎頭数 **30頭**（**20**25頭）
- ・幼稚園児・小学生の見学と小中高生の体験学習の受け入れや研修生受け入れ
- ・毎月1回以上の定期巡回を行い、不受胎牛の早期把握及び早期治療による生産性向上と子牛の損耗防止に努めます。(受胎率**95%**（**20**85%）、平均空胎日数**100日**（**20**129日）を目標)

- ◎ ▶経営能力セミナーを**2回**開催した。(第1回を6/19に開催、青年農業者等27名が参加。第2回を2/26に開催、40名が参加。)青年農業者自らが経営を見つめ直すきっかけとなり、経営上の課題、目標を明確にすることができた。
- ▶新規就農者等**22人**が登録。農業基礎講座は**7回**(4/21、5/19、6/16、7/21、9/15、10/20、11/17)開催。みず菜、九条ねぎの作付拡大の意向が現れた。
- ▶**4社**9名の法人専従者が登録。国営農地基礎講座の**5回**(5/13、6/10、8/11、2/18、2/25)開催、現地研修会の**5回**(6/17、7/29、8/27、12/1、12/10)開催。栽培管理技術を持った人材が各社1名育成できた。

- ◎ ▶里力再生事業は**5地区**(宮津市世屋、同日ヶ谷、京丹後市丹後町宇川、大宮町五十河、与謝野町滝・金屋)で実施
- ・ふるさと共援事業は6地区(**6協定**。宮津市世屋、同日ヶ谷、京丹後市丹後町上山、同 矢畑、久美浜町甲坂、<新規>弥栄町野間田中)で実施している。

- ▶丹後地域の平成21年度の年間市場上場頭数は、**223頭**(20年度は222頭)
- ▶子牛生産56頭、子牛せり市へ**52頭**出荷。改良基礎牛として1頭場内保留。
- ▶和牛胚は**267胚**譲渡  
妊娠牛を規模拡大農家へ**6頭**譲渡
- ▶乳用育成牛の譲渡は32頭(長期育成20頭、短期育成10頭)で、**25頭**が和牛胚を受胎。
  - ・レンタカウを府内8地区に計16頭を貸出。
  - ・竹林拡大や獣害等防止をねらいにした和牛放牧試験を農・林・畜3研究機関で実施継続。
- ▶幼稚園、小学校、各種団体の見学や小中高生の体験学習を受け入れた。(19団体、1,345名)
- ▶和牛繁殖農家へ毎月1回以上の巡回指導で延べ1,110頭の繁殖検診を実施。
  - ・受胎率**96%**
  - ・平均空胎日数**110日**

【観光との連携】

○農業・水産業と観光業の協働取組により、丹後の農作物等の地域ブランド化及び販路の確保【新規】

- ・丹後の農水産物を丹後の旅館等に供給する地産地消システムを構築します。
- ・丹後米コシヒカリPRパンフレットの作成（**1種類**）、試食・即売会を実施（**2回**）します。（再掲）
- ・シシ肉、シカ肉の旅館、飲食店等での提供を定着させるため、京丹後市（平成21年度末に食肉処理施設を稼働）と共催での料理研修会開催（**1回**）とキャンペーン実施（**1回**）
- ・丹後水産物利用拡大キャンペーンの実施

○トリガイ、イワガキ、アワビのブランド化による丹後産水産物のイメージアップと生産体制の強化・安定供給

- ①トリガイ種苗配布数**32万個**を供給し、養殖トリガイの販売額**1億円**（府全体）を目指します。
  - ・種苗育成方法の指導研究チームを構成し、種苗育成過程での死亡率（**約2割**）改善による卸販売の増
  - ・宮津市栗田地区での丹後とり貝の生産拡大と、宮津湾での養殖トリガイの出荷開始（**販売額1千万円**）
- ②丹後とり貝の京のブランド産品としての出荷規格検査（**6回**）【新規】
- ③イワガキ種苗配布個数（採苗器枚数）については**1万枚**を供給、イワガキの**販売額1千万円**（府全体）
- ④トリガイ、イワガキの販売促進会議（2回開催）
- ⑤担い手の確保・育成（漁業技術講習会等の開催**2回**）
- ⑥簡易アワビ陸上養殖の普及促進（新規**2地区**（4地区→6地区）、養殖アワビの販売額**700万円**（平成20年度の推計販売額550万円）

○

- ▶丹後広域観光キャンペーン協議会等と連携し、生産者と旅館業者等の意見交換会を4回実施したが、システムの構築には至らなかった。両者が結びついた実践例を今後とも増やしていく必要がある。
- ▶日本穀物検定協会「平成21年産米食味ランキング」において「特A」3年連続（通算8回目）獲得。  
パンフレット作成（**2種類**）、試食会開催（**2回**）
  - ・8月27日、丹後農研施設公開で試食会、PRキャンペーンを実施
  - ・11月28日、29日、農林水産フェスティバルでPRキャンペーンを実施
  - ・12月11日、府大公開講座で試食会、PRキャンペーンを実施
  - ・3月8日、京都駅でPRキャンペーンを実施（再掲）
- ▶10月4日、京丹後食の祭典で試食**キャンペーン**を実施  
3月26日に旅館、飲食店を対象とした**料理研修会**を開催
- ▶丹後PRフェアin大阪などで丹後産水産物をPR  
2009伊根のうみやーもん祭りで「伊根まぐろ」の解体ショー、即売会の実施

○

主たる目標であるトリガイ種苗配布数が過去最高を達成したため

- ①**33.4万個**（過去最高）を配布した。
  - ・養殖トリガイの販売額は**73百万円**
  - ・平成20年度に66.5%であった死亡率が、21年度には62.3%になった。（**4.2ポイント改善**）
  - ・宮津市栗田地区での丹後とり貝の生産拡大と、宮津湾での養殖トリガイの出荷を開始（販売額**1200万円**）
- ②5～6月に出荷規格検査を生産施設及び出荷市場で**6回**実施。
- ③採苗器**1.1万枚**を供給した。
  - ・育成イワガキの生産額 390万円 <府全体 **580万円**>
- ④丹後トリガイ及び育成イワガキの今年度出荷に係る販売促進会議が4～5月に2回開催され、出荷方法や効果的な情報発信などについて検討が行われた。
- ⑤6月に磯根漁業者対象の講習会を実施、3月に貝類養殖業者対象の講習会を実施（**計2回**）
- ⑥丹後地域での新規地区は**無し**（舞鶴市で新規2地区。丹後地域では、従来からの京丹後市丹後町2地区、伊根町2地区で、アワビ陸上養殖を実施）
  - ・本年度養殖アワビの販売額は、**560万円**

地域振興計画	織物、機械金属等地域産業の振興	
事項 1	地場産業の振興と新分野・新産業の創出による地域経済の活性化	
21年度運営目標		取組及び達成状況
<p>○丹後地域の冷え込んだ地域経済が暖まるように、中小企業者の経営支援及び雇用創出事業に積極的に取り組みます。【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関等と地域経済・雇用関係の情報共有ハローワーク、市町村、金融機関及び商工団体等関係機関との情報共有するとともに、連携した支援を行うための雇用や金融の対策会議を開催します。</li> <li>・中小企業者が抱える諸課題の解決に向けたサポート 中小企業の様々な経営課題に応じて、きめ細やかな支援を実施するために、経済団体等と連携した事業所訪問を展開し、中小企業者の事業所のその課題解決に向けてサポートします。(目標訪問件数 <b>100事業所</b>)</li> <li>・地域の課題解決や農商工連携に取り組まれる中小企業者を支援(目標件数 きょうと元気な地域づくり応援ファンド及び農商工連携ファンド <b>採択件数5件</b>)</li> </ul>	◎	<p>▶緊急経済・雇用対策連絡会議において、情報共有、意見交換を実施(4月30日、3月25日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業地域金融対策協議会を開催し、金融機関に対して資金繰り支援の要請を行った(12月2日)</li> <li>▶訪問等事業所数 <b>100</b>(4~3月)</li> <li>▶きょうと元気な地域づくり応援ファンド助成事業 採択件数<b>5件</b> (製造業3 織物業2)</li> <li>きょうと農商工連携応援ファンド助成事業 採択件数<b>2件</b>(製造業・農業2) その他</li> <li>経営革新計画 承認件数3件(建設業2、製造業1)</li> <li>小規模企業チャレンジ事業 採択件数2件(製造業、看板業)</li> <li>京都府中小企業応援条例研究開発等事業計画 認定件数1件(製造業)</li> <li>京都府中小企業研究開発等応援補助金事業 採択件数1件(製造業)</li> </ul>
<p>○丹後織物のブランド化と売れる商品づくりを進め、新たなマーケットへの取り組みを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後織物のブランド化を図るため、機業とデザイナーのコラボレーションにより、概ね<b>5グループ25機業</b>で和洋装地や生活関連商品の新商品開発や新分野商品(寝装品等)の新たなマーケットへの取り組みにより、企画力強化と売れる商品づくりを推進</li> <li>・開発商品の販路開拓拡大に重点を置き、大消費地等での展示会を開催し新たなマーケットの開拓を実践</li> </ul>	◎	<p>▶<b>5グループ28機業</b>が専門家とのコラボにより208点の商品を開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和装製品開発グループⅠ 13機業 検討会7回 31点開発</li> <li>・和装製品開発グループⅡ 5機業 検討会4回 9点開発</li> <li>・洋装製品開発グループⅠ 8機業 検討会4回 調査1回 90点開発</li> <li>・洋装製品開発グループⅡ 7機業 検討会4回 16点開発</li> <li>・洋装製品開発グループⅢ 6機業 検討会4回 62点開発</li> </ul> <p>▶開発商品の販路開拓拡大のための10回の展示会・商談会を開催(商談件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和装製品開発グループⅠ 3回 京都市、東京銀座・日本橋 (47件)</li> <li>・和装製品開発グループⅡ 1回 京都市 (19件)</li> <li>・洋装製品開発グループⅠ 3回 大阪梅田、東京日本橋・銀座 (122件)</li> <li>・洋装製品開発グループⅡ 2回 東京柳橋・六本木 (47件)</li> <li>・洋装製品開発グループⅢ 1回 東京青山 (24件)</li> </ul> <p>(合計 259件)</p>

○丹後・知恵のものづくりパークにおける人材育成と施設有効活用を推進します。

- ・丹後機業の技術伝承と後継者の若手人材を10人以上育成
- ・機械金属業における高度機械加工技術者を15人以上養成
- ・織物、機械金属の技術相談を通じて在職者の人材育成延べ5,000人（@実績4,760人）
- ・各種研修会、講習会の実施による受講者延べ10,000人以上（@実績6,091人：うち通年実施分3,519人、新規実施分657人（H20年10月移転後）、雇用安定助成金研修1,915人）
- ・拠点における人材育成研修についての有用な評価方法を検討し、その手法により評価結果を公表
- ・市場ニーズを調査し、アイデア商品の検討・試作を実施【新規】

○

- ▶丹後機業の技術伝承と後継者の若手人材を10人養成
- ▶機械金属業における高度機械加工技術者を18人養成
- ▶織物、機械金属の技術相談を通じて在職者の人材育成延べ4,841人（4,072+769）  
織物、化学関連 技術相談 4,072件、依頼試験 2,757件  
機械金属関連 技術相談 769件、依頼試験 67件、機器貸付 462件
- ▶各種研修会、講習会の受講者 延べ9,020人
  - ・丹後織物人材育成研修（延べ 394人）
  - ・技能検定受検準備講座(旋盤、フライ盤等)（延べ 200人）
  - ・溶接技術、NC加工機、製図、電気・電子講習会等（延べ1,847人）
  - ・新入社員心得セミナー等（延べ 453人）
  - ・北部ものづくり人材・パワーアップ緊急対策事業(生産管理の基本 延べ6,126人)
- ▶研修終了時に受講生に対するアンケートを実施
  - ・研修満足度を把握するため、①研修終了後研修担当部署あて調査の実施
  - ②研修満足度向上調査（一定期間経過後追跡アンケート）の実施を検討中。
- ▶丹後試作開発研究会を立ち上げ、商品製作にチャレンジ意欲のある技術者（4企業）でカニ加工機の試作を実施
  - ・完成したカニ加工機の内覧会を3月17日に開催し（旅館等関連企業約40人参加）、試作機の活用をPRした。

地域振興計画	生活・交通等基盤整備の推進	
事 項 1	地域での生活や活動を支える条件整備と域内外の交流を活発にする基盤の整備	
21年度運営目標		取組及び達成状況
<p>○鳥取豊岡宮津自動車道の整備推進（宮津野田川道路、平成22年度完成目標）</p> <p>○丹後地域の骨格となる幹線道路の通年2車線確保を目指し、重点的な整備  （主要事業）  国道482号丹後弥栄道路：用地買収促進、築造工事着手  国道312号橋爪道路：用地買収・築造工事  鳥取豊岡宮津自動車道（野田川大宮道路）事業推進に向け支援  （新規事業着手）  国道178号上野平バイパス：新規着手、詳細設計（供用開始箇所）  国道178号養老伊根バイパス、府中バイパス：平成21年度の<b>完成供用開始</b>を図る。  岩滝海岸線：平成21年度の<b>完成</b>を図る。</p> <p>○歩行者等の安心・安全を確保する道路整備  （主要事業）  国道178号（宮津市里波見）：用地買収（与謝野町岩滝交差点部分）：築造工事  国道312号（京丹後市久美浜町永留～橋爪）：用地買収、築造工事  （完成予定箇所）  国道178号交通安全施設（宮津市鶴賀～漁師）：今年度バリアフリー化<b>完成</b></p> <p>○地域の生活を支える道路の効果的な整備  （平成21年度整備路線 <b>13路線</b> 予定）</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>・平成21年度は、宮津野田川道路の設備工事に着手。平成22年度の完成に向けて、予定どおり進捗中</p> <p>・野田川大宮道路については、用地取得、工事用道路に着手</p> <p>▶国道482号丹後弥栄道路の全事業用地の90%の用地買収完了（年度内目標は達成）、物件補償3件、築造工事3月着手</p> <p>▶国道312号橋爪道路の全事業用地の65%の用地買収完了（年度内目標は達成）、物件補償1件完了</p> <p>▶味土野大宮線（野田川大宮道路関連） 築造工事促進</p> <p>▶国道178号上野平バイパスの費用便益調査、3月末完了</p> <p>▶国道178号養老伊根バイパス：3月15日<b>供用開始</b>、府中バイパス：11月8日<b>供用開始</b></p> <p>▶岩滝海岸線：3月30日工事<b>完成</b></p> <p>▶地権者説明会に着手（漁港施設の取り壊しについて、水産庁協議が難航）</p> <p>・築造工事着手（交差点形状について、公安委員会及び地元との調整が難航）</p> <p>▶全事業用地の83%の用地買収完了（年度内目標は達成）・物件補償1件、築造工事完成</p> <p>▶国道178号（鶴賀～漁師）：3月10日工事<b>完成</b></p> <p>▶<b>13路線 工事完成</b>  栗田半島線、舞鶴宮津線、宮津野田川線、中藤加悦線、加悦但東線、浜丹後線、下世屋本庄線、久僧伊根線、弥栄本庄線、井延平線、浜詰網野線、網野久美浜線、尉ヶ畑布袋野線</p>

○公共用地取得プロジェクトチームの活用による計画的かつ円滑に事業の実施

- ・管内の各事業の事業進捗を図るため、用地取得事務の迅速かつ適正な実施に努め、地元関係者に十分説明し理解を得ながら、公共用地取得プロジェクトチームの活用により、計画的かつ円滑に事業を実施

○公共事業を、府民協働事業として積極的に推進します。

- ・「ワークショップ」や検討委員会等の実施により府民協働を積極的に取り組み、地域づくり・まちづくり・ひとづくりにつながる公共事業の整備及び取組の推進を図ります。(目標数 **府民協働 10,000人**)
- ・ボランティア活動の推進及び将来に向けた参加拡大  
ボランティア活動事業：さわやかボランティアロード  
・たんご 地域に愛される川づくり・天橋立まもり隊(新規目標数 **5団体**)

○京丹後市大宮町森本地区において、高規格道路及び府道計画と調整を図りつつ、ほ場整備工事(18.7ha)を実施します。また、府営広域営農団地農道整備事業(丹後地区)の年内完成を目指します。

○北近畿タンゴ鉄道(KTR)について市町・KTR利用促進協議会等の関係機関が連携した利用者増対策により、年間総輸送人員**210万人**を目指します。

- ①府や市町職員による利用(ノーマイカーデー設定、出張利用など)を拡大
- ②駅周辺の清掃や花いっぱい運動など、魅力ある駅づくり
- ③丹後広域観光キャンペーン協議会等の関係機関と連携した取組による地域外からの誘客推進

- ◎ ▶新規事業については、工事計画を地元関係者に十分説明し理解を得た上で34箇所用地立会を実施した。  
・継続事業については、引き続き精力的に用地交渉を行い、物件移転も含め多くの案件で契約に至った。  
・新規に2件を公共用地取得プロジェクトチームの困難案件に位置付け、その中の1件(川上谷川)で契約に至った。(平成21年度プロジェクト対象箇所：川上谷川、野中丹後神野停車場線)
- ▶**約9,400人**(天橋立継承準備委員会、さわやかボランティアロード等のボランティア活動など)  
▶さわやかボランティアロード(5団体)  
たんご 地域に愛される川づくり(0団体)  
天橋立まもり隊(9団体)  
計**14団体**(いずれも新規団体)
- ◎ ▶18.7haのほ場整備工事を発注し、高規格道路等との実施調整を進め、3月29日に工事を完了した。  
▶府営広域農道(丹後地区)(京丹後市丹後町徳光)を11月6日に**供用開始**した。
- × ▶本年度輸送実績 **184万人**(2月末現在。対前年度比99.4%)  
・高速道路の休日割引、景気低迷、新型インフルエンザ、夏期の天候不順等(海水浴客の減少)の影響により利用者が伸び悩んだ。  
①京丹後市：7月から職員による月2エコ通勤(毎月2日以上、ノーマイカーデー)、KTR通勤モニターなどを実施。各戸配布の市広報誌、時刻表によるKTR利用の呼びかけ  
宮津市：地元女性団体による「岩滝口駅ほっとサロン」の設置(地域力再生プロジェクト支援事業交付金を活用)  
振興局：「活動プランニュース(年2回)」、「府民だより丹後版(年4回)」、「京丹後市広報誌(京都府のひろば)」による利用促進PR。  
② 7月：自然公園ふれあい全国大会の地元PRを目的に、「宮津駅」、「天橋立駅」周辺の草刈りと駅舎にPR用プランターを飾る取組を実施  
12月：地元の子供たちと協働で、峰山駅で花いっぱい運動を実施。  
③山陰海岸ジオパークや国民文化祭などのPRをラッピング車両や車内広告などにより実施。府事業と関連した誘客推進を展開。  
・丹後広域観光キャンペーン協議会とKTR等が連携した6種類の企画商品を開発実施済み(2day天橋立まるごとフリー切符(KTR、丹海)、サワラ会席、黒アワビ会席(KTR)、ボンネットバスめぐり(丹海)、沖ぎすと京たんくろ和牛しゃぶしゃぶ(KTR)、丹後半島・間人フリーパス(KTR、丹海))(再掲)

④サポーターズクラブ会員**1万人**達成に向けて、平成21年度のサポーターズクラブ会員、トレインオーナーなど年間**5,000人**達成を目指します。

○丹後NPOパートナーシップセンターを拠点に、NPOの組織運営力向上のためのイベントを開催  
NPOや地域活動団体の育成・交流・連携を促進するとともに、活動団体が主体的に事業展開できる機会を提供します。

④サポーターズクラブ会員・トレインオーナー 22年度末現在 **4,107人**  
(過去実績 ⑱2,232口、⑲3,078口、⑳4,041口)

◎

▶「FMたんご」による電波での地域力再生団体やNPOの活動PR(2~3月、30団体)(地域戦略推進事業)(再掲)  
・11月に地元商工会と協働したイベントを実施(NPOや地域再生事業実施団体の活動PR)(500名参加)  
・3月に「情報発信」をテーマにした交流会を開催し、地域力再生プロジェクト実施団体やNPOなどによる意見交換を実施(22団体参加)

地域振興計画	安心・安全、環境先進の地域づくり	
事 項 1	子どもからお年寄りまで安心・安全で元気に暮らせる地域づくりと環境先進地をめざす地域づくりの推進	
21年度運営目標		取組及び達成状況
<p>○「府民公募型安心・安全整備事業」については、通学路や信号機等の整備をはじめとして、より多くの提案をもらうため、管内の小中高等学校（79校）、社会福祉施設（約80施設）に制度の周知を行うほか、各種のイベント等においてPRを行います。【新規】（再掲）</p> <p>○平成19年1月冬季暴風波浪災害の復旧事業の早期完了 ・冬季暴風波浪災害箇所（京丹後市丹後町間人地区）に海水浴客を取り戻し、地域の活性化を図るため<b>今年の海水浴シーズンまでに復旧事業の完成</b>を目指します。</p> <p>○氾濫の多い主な河川の改修事業の促進 ・福田川：橋梁工・護岸工、川上谷川：橋梁工・用地買収等、野田川支川（岩屋川・加悦奥川）：用地買収等・橋梁工、 ・鳥取川：用地買収等、俵野川：護岸工、小西川：調査等、佐濃谷川：詳細設計等（橋梁）・用地買収</p> <p>○平成21年度末の概成を目指し大手川の河川激甚災害対策特別緊急事業により改修事業を推進 ＜改築橋梁＞ 改築計画全体で<b>13橋梁の完成</b>を目指します（平成20年度末で5橋完成） ・第1工区：大手橋から京口橋区間における護岸工の概成を目指します。 ・第2工区：2工区の暫定掘削の概成及び滝馬川改修の本格的着手 ・第3工区：当該工区の護岸工関係について<b>8～9割</b>の完成を目指します。</p> <p>○ハード対策とソフト対策一体となった総合的な土砂災害対策を推進し、市町が行う避難情報が迅速に発表できるよう危険箇所の周知など 情報提供の強化</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>（再掲）</p> <p>▶管内の小中高等学校へのPRについては、5月1日、管内公立学校園長会の場での説明や管内市町教育委員会への周知依頼を行った。 ・管内の社会福祉施設については所管課からの周知により依頼を行った。 ・管内市町各自自治会については市町担当課から説明が行われた。 上記PRの結果、予想以上に公募があり、制度の周知は達成されたと思われる。</p> <p>▶海水浴シーズン開幕前の<b>6月末に工事が完成</b>し、間人後ヶ浜海水浴場が安全に使用できることとなった。</p> <p>▶各河川とも21年度予定事業は概ね完了</p> <p>＜改築橋梁＞ ▶残り8橋について、今年度当初に全ての工事を発注し年度末には完了した。したがって、<b>13橋梁の全てが完了</b>した。 ・第1工区：大手橋から京口橋間の護岸工は年度末に<b>完了</b>した。 京口橋からKTR区間については、11月に護岸工事に着手をし現在工事中。 ・第2工区：ワンド（川の本流と繋がっているが、河川構造物などに囲まれて池のようになっていた地形）整備を除く全ての工事発注を終え現在工事中。暫定掘削の概成はほぼ図れた。（延長比約9割） 滝馬川改修については、合流部処理を除き市委託工事は完了した。 ・第3工区：当該区間の護岸工は<b>約9割の完成</b>が図れた。今福川合流部は次期出水期までの概成を見込み現在工事中。</p>

＜ソフト事業＞

- ・土砂災害警戒区域等の指定拡大（H21指定予定**300箇所**）※全体約1,717箇所（◎477箇所、約28%）

＜ハード事業＞

- ・重点的、集中的な土砂災害対策の整備
- ・砂防事業：柿ヶ成川、辻川、五万騎川、孫谷川（新規）、平地川（新規）、大橋川、真名井川
- ・急傾斜事業：河梨、新庄、吉沢、本庄浜（新規）、神谷（新規）、間人谷（新規）、口大野、小田宿野、新庄、上世屋（雪崩）
- ・地すべり事業：間人地すべり事業の**完了**を図る。

○災害に強い道路ネットワークの整備を促進します。

異常気象時の通行規制箇所の整備促進、災害時における孤立集落の解消するための事業推進

- ・国道178号 由良～脇間：法面防災工事
- 宮津市日置～長江間：法面、護岸防災工事
- 伊根町蒲入～京丹後市丹後町袖志間：法面防災工事

○自然と環境に優しい公共事業を進めます。

- ①「美しい海岸線を保全するための海岸侵食対策事業」
  - ・後ヶ浜海岸：経過観測により人工リーフ（波を弱める施設）の効果を検証する。
  - ・久美浜海岸：平成21年度の**完成**を目指して事業進捗
  - ・由良海岸：著しい汀線後退の原因解明のため、模型実験又はシミュレーションを実施し、対策工の検討を行う。  
補助事業の導入までは、対処療法であるが養浜工・離岸堤嵩上げ・護岸根固工を継続する
- ②「地域と自然が共生する川づくり」
  - ・宇川：多自然川づくり（袋詰玉石工等による全面魚道）、ワークショップによる河川公園・親水護岸工を継続する。
  - ・犀川：ワークショップによる親水護岸工を継続する。
  - ・香河川：ワークショップによる河川公園・斜路工等を継続する。

○管内の不法係留対策を進めます。【新規】

- ・大手川については、平成20年度に発足した協議会を中心に不法係留対策に係る計画を**完成**させます。

- ▶宮津市112箇所、京丹後市248箇所、伊根町53箇所、与謝野町35箇所の住民説明会を実施し、管内全体で**239箇所**を指定した。住民への周知については448箇所ですべて完了しているが、22年に説明会を実施した箇所の手続きが完了していないため。

▶（砂防事業）

- ・21年度予定事業は概ね完了
- 線越：辻川、五万騎川、孫谷川、平地川、大橋川

▶（急傾斜事業）

- ・21年度予定事業は概ね完了
- 線越：新庄、本庄浜、神谷、間人谷

▶（地すべり事業）

- ・間人地すべりは、3月末に事業**完了**

◎

- ▶由良～脇間：法面工事完成（継続）
- ▶日置～長江間：法面、護岸防災工事完成（継続）
- ▶蒲入～袖志間：法面防災工事完成（継続）

○

- ①「美しい海岸線を保全するための海岸侵食対策事業」
  - ▶後ヶ浜海岸は、21年度予定事業は完了
  - ▶久美浜海岸は、**ブロック製作の工事を完了した。据付工準備中**（H22夏完了予定）
  - ▶由良海岸は、汀線後退の原因究明のため、シミュレーション解析を実施。養浜工発注済み。

②「地域と自然が共生する川づくり」

- ▶宇川は、21年度予定事業は概ね完了

- ▶犀川は、21年度予定事業は完了

- ▶香河川は、21年度予定事業は完了

×

- ▶大手川については、基本的な方向性は関係団体間で合意。今後とも具体的な計画の策定に向け、宮津市に引き続き協力を求めるとともに、係留船舶の管理組織発足に向け、事務局担当を要請中。

- ・他の河川・港湾区域についても、課題・対策等の検討を図るため、市町・地域住民・漁業関係者等と対策検討会を発足させます。

#### ○安心安全な地域医療体制の構築に向けた取組を推進します。

- ・地域の医療連携の推進を図るため、地域保健医療協議会を継続開催し、丹後圏域の医療機関の連携や医療と介護の連携体制の充実に向けた情報共有と発信を行います。  
(年2回以上開催)
- ・病院の入退院や介護保険サービスを利用する際の円滑な情報共有のための「連携シート(平成20年度地域保健医療協議会にて議論・協議)」を試行的に運用して、病院・診療所・福祉施設の情報共有や連携の課題について検証するとともに、地域医療福祉関係者が交流や意見交換等ができる機会を継続して設定し、顔の見える関係づくりを進めます。

#### ○救急医療体制の取組を推進します。

- ・ドクターヘリの導入について、医療・消防・行政機関と連携し、離発着場候補地を選定し、平成22年度の共同運行に向け導入準備を推進します。(北部地域を中心に70カ所)
- ・小児救急医療体制を強化するため、内科医等の協力を得て、オンコールによる平日夜間及び休日の体制整備を進めます。

#### ○医師確保の取組を推進します。

- ・公立病院・診療所の医師不足について、関係市町と連携し、医師確保を図ります。

#### ○新型インフルエンザ対策について、管内の対策を推進するための対策会議を開催し、発生時の対応について具体的に取組みます。

- ①医療確保対策については協力医療機関、その他の病院、医師会等で検討会を開催し、発生時に感染拡大を防止し、

- ▶不法係留対策として、北部地域(舞鶴、宮津、京丹後市)で2月1日に「対策協議会」を発足

\* 構成団体:行政機関(国・府・市町),漁業者団体、船舶関係団体等

○

- ▶丹後圏域における医療連携の検討を目的に、「丹後地域保健医療協議会」を2回、医療連携推進部会等(4回)を開催

- ▶医療と介護の情報共有ツール「連携シート」案を作成し、8月から10月までの間、丹後管内30の病院、介護サービス事業所で試験運用し、評価アンケートを実施。連携シートの課題等について、連携推進部会において評価と連携方法を検討し、圏域内共通様式を作成

- ・高齢者介護職種の支援のため、テレビ会議システムによる老年精神医学に関する研修を、京都府立医科大学等と連携して開催(5回:居宅介護支援事業所等の職員など6箇所6人参加)
- ・地域保健医療福祉関係者による連携推進シンポジウムを開催

○

- ▶豊岡病院を基地病院とする「ドクターヘリ(運航:学校法人ヒラタ学園)」が平成22年4月から運航開始

- ・北部地域を中心に府内173箇所を離発着場所に選定(うち丹後地域68)

- ▶与謝の海病院、久美浜病院におけるオンコール体制支援として、小児救急医療体制整備事業費による補助整備を整備

○

- ▶府医師バンクの活用により

→京丹後市立間人診療所の医師確保(7月1日)

→与謝の海病院脳神経外科の医師退職による4月からの外来休診について、府立医大、舞鶴医療センターの協力による、7月14日外来診察再開

→京都第一赤の協力による11月27日入院・手術再開

- ・丹後医療圏において、国の地域医療再生基金の活用が認定

→医師確保をはじめ医療提供体制の充実強化の取組について、医師会など関係機関への説明会を実施するとともに、丹後地域保健医療協議会において、医療機関や福祉の職能団体により、今後の取組について意見交流を実施

○

- ①国の「医療確保等に関する運用指針」の改定(6月19日)を受けた京都府の対応方針に基づき、8月1日以降、全医療機関での協力が得られる体制を再構築

速やかに必要な医療が受けられる体制について検討します。

- ・発熱外来の設置について、協力医療機関での開設とともに、それ以外での設置についても検討し、必要数、設置場所を選定し体制整備を進めます。
- ・入院病床については、病床確保の具体化に向け丹後圏域での枠組み、協力体制を図ります。

②対策会議を開催し、市町等関係機関が計画等を策定し、具体的な取組が推進できるよう支援します。

③新型インフルエンザ発生時に府民の感染者数を抑制し、対策が混乱なく実施できる地域づくりを推進するため普及啓発を推進します。

- ・研修会を開催し、新型インフルエンザ対策の地域リーダーの育成を目指します。
- ・新型インフルエンザニュースを**12回**発行します。
- ・新型インフルエンザフォーラムを**1回**開催します。

④新型インフルエンザ対策

高病原性鳥インフルエンザをはじめとする悪性伝染病発生予防のための監視体制を強化し、万一発生した場合のまん延防止のために、初動防疫体制や関係機関との連携による防疫措置体制を強化します。

#### ○健康長寿日本一総合対策事業（健診等受診率向上対策の推進）

- ・特定健診は平成24年度受診率70%を目標に平成21年度受診率**50%**、また、がん検診においても平成21年度受診率**50%**を目指し、管内の市町や民間団体等と連携し、広く一般に予防、早期発見・早期治療を周知するための街頭啓発やイベント会場などでの効果的な啓発活動を実施します。
- ・市町等との意見・情報交換等を通して、総合健診や休日健診などの工夫を拡大しつつ、府民が受診しやすい体制整備づくりを進めます。

#### ○2市1町が取り組んでいる5歳児健診事業（発達障害児早期発見・早期療育事業）の円滑な実施（17園実施、対象園児340人）に向け、新たに配属の臨床心理士も積極的に関与しつつ、スクリーニングや事後支援等に取り組めます。【新規】

- ・発達障害研修会（保育士対象：**2回**、保健師対象：**2回**）を開催し、関係者の力量アップを目指します。

②国の「医療確保等に関する運用指針」の改定等に伴い、7月31日に医療機関対象の説明会等を開催

- ・10月からのワクチン接種を円滑に進める体制の構築に向け、市町と医療機関などとの協議を実施
- ・さらに、年末年始における診療体制の確認・連携のため、関係機関連絡会議を年末に開催し、必要な診療体制を確保

③集団感染拡大防止を主眼に、高齢者施設・保育所・学校等の職員の対応能力向上を図る研修会を8月以降順次開催し、参加者の感染症対策リーダーとしての能力を高めた。

- また、地域各種団体への出前講座を開催することで、地域での感染抑制を図る（27回、延べ1,395人）。
- ・ニュースを毎月発行（年**12回**、230の管内機関に配付。HPでも情報発信）
- また、啓発リーフレットを全世帯に配付
- ・「新型インフルエンザ対策フォーラム」を9月19日に**開催**し、170人の参加を得て、秋冬の流行期に向けて医療従事者等の対応力向上を図った。

④丹後管内の全鶏飼育者（167戸）に対し、巡回指導による高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生防止指導実施

- ・HPAI（12月3日開催）及び偶蹄類の海外悪性伝染病である口蹄疫（2月10日開催）の防疫演習を開催し、初動防疫体制や関係機関との連携による防疫措置体制を強化

× ▶平成21年度受診率(概数)は、特定健診**33%**、がん検診（胃**25%**、子宮**37%**、肺**42%**、乳**43%**、大腸**36%**）

- ・京都府健診受診促進キャンペーンに呼応し、市町や関係団体等と連携した啓発活動（年間26回、約4,880人）
- ・「ピンクリボンフェスタ」を開催（200人参加）し、乳がん検診受診促進、自己検診法普及を図る。
- ・丹後保健所での電飾によるピンクリボンPR活動と民間団体等と協働した街頭啓発を実施
- ▶7月の京都府健診等受診率推進会議の設置を踏まえて、管内の体制づくりを検討。8月の初回管内協議において意見・情報交換を実施。また、秋季に管内4市町を個別に訪問し、地域事情を踏まえた個別の取組等について助言等を実施

○ ▶伊根町を除く2市1町（**17園実施、対象園児314人**）で、5歳児健診事業（発達障害児早期発見・早期療育事業）に取り組む。

- ▶保育士・保健師等対象の研修会を**4回**（合同研修3回、保健師対象1回、延441人参加）開催し、関係者の力量アップを図り、子ども・保護者への支援・対応を推進

- ・発達障害児支援連絡会を開催（年1回）し、円滑な就学支援に向けた体制整備を図るとともに、圏域の発達障害支援センターとの連携を図ります。
- ・事後支援として、医療・心理の専門的クリニックを開催（**10回**）します。
- ・自閉症児等の支援の一環として親支援（ペアレントトレーニング）を**1回（6連続講座）**実施します。

○「丹後圏域障害者自立支援協議会」を中心に、管内各機関の連携を強化し、障害者の方々の自立と社会参加を進めます。

- ・運営委員会等を定期的で開催し、構成機関の力を高め、地域課題への対応に取り組みます。  
（全体会議：1回 運営委員会：随時、専門部会：3部会（①精神障害 ②就労支援 ③発達障害）を定期的開催）
- ・管内での障害者就業・生活支援センターの早期開設に向けて、地域の障害者の方々の実態の把握等、条件整備に努めます。
- ・管内での、ほっとはあと製品の販売支援を強化します。  
管内関係施設の連絡会議の設置や、峰山総合庁舎で毎週開催しているハートショップの充実・強化に取り組むとともに、局内各部・関係機関と連携し、地域の特色を生かした新たな製品づくり（**1以上**）や府授産振興センターと連携を強化した販売支援を行います。

○管内各市町・各機関との窓口相談の連携を強化し、管内での自殺者数の減少を目指します。

- ①「丹後管内自殺対策連絡会」を設置し、管内市町・関係機関相互の情報共有に努めます。
- ②府の各相談窓口担当職員の相談能力アップのため、「うつ」等に係る研修を実施します。
- ③気軽に利用してもらえる相談窓口を目指して、市町とともに積極的な広報啓発を実施します。
- ④京丹後市が先駆的に取り組んでいる自殺予防対策について、管内市町で情報共有して、他市町における相談機能の充実につなげます。

- ▶6月26日に管内事業担当者会議を開催し、臨床心理士の助言を受けつつ、今年度の事業計画について意見・情報交換を実施
- ・また、3月11日に発達障害児支援連絡会を開催し、相談支援ファイルの運用に向けた検討協議を行うなど円滑な就学支援に向けた体制構築及び圏域の発達障害支援センターとの連携等を推進
- ・3月2日に、発達障害児を含め特別な支援を要する子どもが健やかな成長ができるよう、保健・福祉・教育・ボランティア等の支援者のネットワークの構築を目指して、「丹後地域子育て支援フォーラム」を開催し、44機関（100人）が参加
- ▶専門家（小児科医、臨床心理士）の支援を得て、クリニックを7回開催し16人が受診（**10回枠用意**）
- ▶7月21日を初回として、**6連続（数週間間隔）**の親支援教室を開催し、延23人（実6人）参加

- ▶運営委員会は7月以降毎月開催。新たに「医療的ケア」部会を設置。関係機関との連携体制を強化し、定期的な協議体制を構築
- ▶管内の事業所に対し、初の障害者就業意向アンケートを実施（約1,800事業所、回答率約37%）。管内の障害者就業・生活支援センターの設置（平成22年4月予定）に向けて、障害者雇用の現状と課題を整理
- ▶峰山総合庁舎での「ハートショップたんご」は毎週開催。利用者アンケートを実施し、施設にフィードバック
- ・3月から宮津総合庁舎で「ハートショップたんご」（毎週木曜日）をスタート。
- ・その他、与謝野町等でも販売開始
- ▶ダイコンプロジェクトとして製作した漬物等を、新たに府庁生協でも販売開始（7月～）。
- ・新たに切り干し大根を製作
- ・ひの菜等の丹後の農産物を活用した漬物等を**試作中**。新製品開発や参加事業所の拡大についても協議中

- 主たる目標である「自殺者数の減少」を達成したため
- ▶平成21年の自殺者数（警察統計・暫定値）35人、前年比**5人減少**（前年40人）
- ①「連絡会」については、設置準備中（平成22年4月に設置予定）
- ②管内の各相談機関の担当職員の知識と対応能力の向上を目的に「自殺対策相談研修会」を開催（3月19日、60名）  
民生児童委員に対して、相談の受け方・返し方の研修を実施（延べ2回、137名）
- ③「丹後保健所だより」（隔月発行）で、こころの健康コラム連載を開始。  
市町と共同で強化月間（3月）に街頭啓発実施（京丹後市・宮津市・与謝野町）。
- ④京丹後市自殺ゼロ推進会議に参加、管内市町の自殺対策の取組を支援するため、府精神保健福祉総合センター等関係機関と連携を強化。「丹後地域保健医療協議会」で、医療、介護、市町等関係機関に課題認識と自殺防止に向けての協力依頼、関係機関相互の連携を確認

○旅館、公衆浴場で温泉を循環利用する重点監視指導施設に対する2年に1回の立入検査、衛生管理の徹底指導

(192施設中96施設を目標)

- ・温泉利用施設、宿泊施設、福祉施設等に自主点検票を配布し、事業者による自主的衛生管理の取組を指導します。
- ・観光旅館組合、観光協会等、各種団体と連携し、自主的な衛生管理を支援します。
- ・安全に温泉を利用するための基礎知識などを保健所のホームページに記載し、温泉利用者が心身を休め健康を増進するための情報を提供します。

○国民文化祭開催に向けた、管内市町での実行委員会の立ち上げと、各市町において1事業以上の地域文化活動を支援し、地域住民の気運を醸成します。

○阿蘇海環境改善及び天橋立環境保全等の取組

(1)天橋立環境改善及び環境保全等

関係市町・団体と連携しながら、国際的な評価を高めます。

- ①専門家(歴史家、地理研究家、美術史研究家、庭園研究家など)による調査・研究
- ②海外から専門家を招き、国際的なシンポジウムを開催

(2)阿蘇海環境改善及び環境保全等

- ①阿蘇海環境改善に向けた分野別(生活系、農業系等)環境啓発パンフの作成
- ②阿蘇海及びその流入河川域の小学生を対象とする環境絵画コンクールやモデル的環境改善への取組による改善意識の醸成
- ③環境にやさしい農業推進の普及啓発(環境にやさしい水稻栽培モデル集落の設置等)
- ④地元中学生等による生き物調査等の実施

○▶旅館、公衆浴場等で温泉を循環利用している施設に対して、自主点検票等を配布するなど立入指導を実施。(90施設実施済み：実施率94%)

- ▶丹後及び宮津・与謝衛生協会と連携し、7回の講習会で旅館経営者への衛生管理を指導したため、旅館組合及び観光協会との連携した取組は行わなかった。
- ▶保健所だより(第28号)に「温泉の恵み豊かな丹後」として記事を記載し、情報提供した。また、丹後保健所のホームページにも掲載

◎▶京丹後市(小町ろまん短歌大会)、与謝野町(江山文庫俳句大賞)で地域文化活動支援事業(補助)を実施

- ・宮津市、伊根町では、地域力再生プロジェクト支援事業を活用(宮津市：雪舟が描いた天橋立府中再生プロジェクト他。伊根町：河来見翁三番叟)

(各市町で各1事業)

◎①7月～3月まで、京都府立大学に対して「世界的・国際的観点からの比較研究による天橋立の白砂青松の景勝地としての希少性又は代表性の証明」などをテーマに調査研究を委託。(本報告書は、平成22年5月に文化庁に対して、地元との取組として提出する予定)

◎②国内外の専門家(ボン大学名誉教授など)と地元「天橋立を世界遺産にする会」との意見交換会、同専門家による「天橋立国際シンポジウム」を開催(参加者約130名)

- ・また、イタリアの世界遺産に登録された文化景観に携わった技術責任者を招いての「天橋立国際専門家円卓会議」を開催

○①子どもに分かりやすい阿蘇海環境学習教材(啓発冊子、パンフ)の作成、配布。阿蘇海現状PR用DVDの製作、配布。

②環境絵画コンクールを与謝野町に加え、宮津市でも実施。応募作品数は340点。

③濁水流出防止水稻栽培モデル集落の設置(与謝野町後野で、あぜ塗りや浅水代かきを集落全体で実施)

④環境省「里海創生支援モデル事業」による阿蘇海環境改善取組を全国に発信。

- ・地元小中学生等(5校)による生き物調査等の実施、取組を通じての子どもから大人への環境改善アピール。
- ・環境省ホームページへのアップにより、阿蘇海の取組を全国へPR
- ・「自然公園ふれあい全国大会」で活動を全国発信

開催月の9月を阿蘇海環境改善啓発強化月間と位置付け、阿蘇海環境づくり協働会議主導による阿蘇海沿岸の清掃(70名参加)を実施

▶阿蘇海水質の実体験による意識啓発

- ・10月に、阿蘇海の実態を学ぶ船上見学会(70名参加)を実施。
- ・出前語らい(阿蘇海の水及びヘドロのサンプルによる体験)

⑤海洋生物を活用した阿蘇海の環境改善技術の開発（ホンダワラ類の海面育成試験、アサリ垂下育成実証試験を継続実施）

(3)「天橋立」を未来に引き継ぐための天橋立公園継承準備委員会の府民協働による運営を継続

- ・検討委員会で提案されている松林保全作業の継続
- ・ボランティアとの協働作業の参加拡大を図るため、地域と連携した情報発信を展開
- ・地域や子ども達への学習会の開催や利用への情報提供などにより、天橋立の価値の発掘、共有、情報発信を進めます。
- ・天橋立の環境保全を府民協働でより一層進めます。（ボランティア活動：新規目標数 **5団体**（再掲））
- ・天橋立公園継承準備委員会の今後のあり方（将来的な組織形態など）について中間とりまとめを行う。

(4)景観を活かしたまちづくりを支援するため、景観に配慮した公共事業を積極的に進めます。

- ①「天橋立周辺地域景観まちづくり計画」
  - ・計画策定後の円滑な運用を図るべく関係市町と連携を図ります。
- ②「景観まちづくりにつながる公共事業」
  - ・大手川：景観に配慮した護岸整備の推進
  - ・国道178号府中道路：歩道修景・電線地中化**完了**
  - ・岩滝海岸線：景観に配慮した道路整備**完了**
  - ・宮津養父線（宮津市文珠）：景観に配慮した歩道整備計画

○丹後天橋立大江山国定公園の利用と保全の取組を地域・市町と共に進めます。

- ①平成21年度の自然公園ふれあい全国大会に向けての取組の推進
  - ・近畿自然歩道の整備を進めます。
  - ・国定公園内の案内板の整備を進めます。
- ②利用施設整備の推進（袖志園地(経ヶ岬)トイレ改修工事**完了**、園路整備促進

⑤海藻育成では、ホンダワラ類の育成可能種を検討し、ミヤベモクが3月中旬まで順調に生育することを確認するなど養殖技術開発を進めた。  
・アサリ育成では、夏場の貧酸素水の出現状況から、適切な垂下水深を推定した。22年6月頃まで試験を行い、短期（半年間）育成により、身入りの良好な貝の生産を目指す予定

○

- ▶松枯れ防除、松葉回収を継続的に実施するとともに、腐植土除去試験の中間的な取りまとめ、さらに樹木医の指導による樹勢回復を実施。
- ▶ホームページを活用したボランティアの募集、活動状況も掲載。
- ▶管内小学校に出前語らいの実施（1回、14人）し、天橋立の保全や、阿蘇海の環境について学習を進めた。

▶ボランティアは新規**9団体**（従来分含めて全体で14団体、1,003人）が参加

▶天橋立継承準備委員会は、地域住民（団体）を中心とした委員会組織への移行を目指すことを確認（3月8日開催）

○

①宮津市まち景観形成協議会への参加など景観計画の第2ステップに向け連携を図っている。

②「景観まちづくりにつながる公共事業」

- ▶大手橋から京口橋間の護岸整備は年度末に完了した。
  - ・地元と協働で取り組みをした大手橋から中橋上流右岸における特殊堤（城壁風護岸の復元）についても、年度末に完了した。
  - ・京口橋から松原橋間の護岸整備については、来年度内完了を目指し工事に着手をした。
- ▶府中道路：歩道修景・電線地中化**完了**
- ▶岩滝海岸線：**完了**
- ▶宮津養父線：整備計画完了

○

①自然公園ふれあい全国対策に向けての取組

- ・犬ヶ岬園地（エコツアーコース）の園路の修復完成
- ・案内板整備：15箇所設置完了

②トイレ改修工事：**完成**

園路整備：工事ほぼ完成（1,190m中1,010m分完成）

○「丹後海と星の見える丘公園」の利活用を促進します。  
 ・丹後海と星の見える丘公園利活用連絡会議の開催や管内校長会等へのPRを行い、管内関係機関や団体、関連施設との連携及び公園情報の発信を強化して、年間利用者 **55,000人**、環境プログラムへの参加 **7,000人** を目指します。

○農地や農業用施設の維持管理保全活動を支援するため、ふるさとボランティア活動に取り組みます (**3地区**)

○野生鳥獣による被害の軽減を図るため、地域住民と共に捕獲の担い手育成や生息環境整備等の対策を総合的に展開します。  
 ・捕獲担い手確保のための免許取得のPRと免許取得講習会開催を支援します。(新規免許取得者数：**30名**)  
 ・地域住民自らが鳥獣被害防除に取り組むことができるように、各地で研修会を開催します。(6回)  
 ・府県、市町をまたいだ広域捕獲を実施します。(3回)【新規】

○地球温暖化防止を含む地域環境改善、環境保全等の取組を推進し、環境に優しい地域づくりを進めます。  
 ・CO2吸収源対策、森林の適正管理に向け、積極的に間伐を推進します。  
 間伐モデル団地の設定 (新規**1地区**、計**3地区**)、間伐面積 (**380ha**)、利用間伐 (**1,000m3**)  
 間伐推進の検討会の開催(3回)、啓発チラシの配布(1回)  
 ・府民や企業等、多様な主体の参加によるモデルフォレスト運動を展開します。(協定締結 **3地区**)【新規】  
 企業や団体が参加して取り組む森づくり活動 (**3回以上**開催)  
 ・府民参加の森づくりに向けた普及啓発のフォーラムの開催 (**3回**)  
 ・小水力発電(エコマイクロ水力エネルギー活用事業)に取り組み、公民館等公共施設の電力利活用を図ります。  
 (**1地区**)【新規】

× ▶丹後管内の体験学習関係施設等の関係機関と利活用会議を開催し、情報共有や連携方策等を検討するとともに、丹後管内の校長会など関係機関へのPRを実施  
 ▶利用実績  
 ・年間利用者 **47,156人** (前年度比 約4%減)  
 ・プログラム参加者 **5,662人** (前年度比 約24%減)  
 →新型インフルエンザの影響による学校行事や団体などのイベントの中止や縮小、夏場の天候不順(長雨)等による利用者、参加者の減少

○ ▶7月4日～5日に京丹後市丹後町上山で実施  
 ・3月20日に伊根町新井で実施(計**2地区**)。もう1地区については地元調整がつかず、22年度に向けて準備調整中

◎ ▶8月22日の狩猟免許試験で、新規取得者**47名**  
 ▶**8回**実施(京丹後市久美浜町、京丹後市丹後町袖志2回、丹後農研2回、新規就農者向け、京丹後市、与謝野町)  
 ▶**4回**実施(4/5京丹後市久美浜町、10/18京丹後市久美浜町、2/21京丹後市峰山町、3/7与謝野町)

○ ▶間伐モデル団地(計**3地区**):京丹後市久美浜町尉ヶ畑、久美浜町三原、<新規>宮津市上宮津小田(大江山)  
 ・間伐面積 **302ha**、利用間伐 **1,130m3**  
 ・検討会**4回**(三原、男山、尉ヶ畑、林研)、チラシ配布**2回**(三原、男山)  
 ▶宮津市上宮津小田(大江山)の協定に向け地元と調整中  
 ・予定企業が組織再編の関係から伊根町太鼓山での取組を休止(協定締結**0地区**)  
 ・森づくり活動**3回**(6/27漁民の森づくり、10/31大江山、11/29与謝野町男山)  
 ▶フォーラム**1回**(12月18日、与謝野町男山)  
 もう2回については地域協議会と調整がつかず、22年度実施に向けて調整中。  
 ▶平成22年3月、京丹後市大宮町延利に**設置**

21運営目標の達成状況	◎：目標を上回って達成	○：概ね目標を達成	×：目標を十分達成できず	合計
	22	27	8	57